

1. 教育方針

本県の次代の農業経営を担い、地域社会における農業の振興等に指導的役割を果たす人材を育成する。

(1) 農業を行うために必要とされる高度な専門知識技術および経営能力を養成する。

(2) 実践学習を通じて、農業者としてふさわしい幅広い視野を持った経営能力および組織活動能力を養成する。

2. 教育方法

授業は実践学習を基本とし、講義・演習・実習により行う。第1学年前期の4ヶ月で教養科目と専門共通科目を学習する。5月には4日間の農業体験学習がある。また、6月から専攻別の実習が始まる。9月以降の後期から第2学年前期にかけて専攻学習を多く取り入れ、農業の基礎知識、技術習得と幅広い教養を養うとともに専門知識の学習を行なう。さらに専攻別のプロジェクト学習による実践的な栽培（飼養）技術の習得を行う。

第2学年では、2ヶ月間の農業体験学習により現場での農業技術や経営感覚を学ぶ。

第2学年後期後半には卒業に向けて専門、教養科目の学習を行うとともに、プロジェクト学習や卒業論文のまとめを行う。

年間学業体系

月 学年・専攻		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
第1学年		基礎学習（農業体験学習も含む） 専攻学習（実習のみ） 教養・専攻学習 教養・専攻学習											
第2学年	水田 野菜 花き 畜産	専攻学習 農業体験学習 教養・専攻学習 卒論作成											
	茶 果樹	専攻学習 農業体験学習 農業体験学習 教養・専攻学習 卒論作成											

3. 教育計画

(1) 全体計画

① 専攻コースと教育場所

課 程	専 攻 (コ ー ス)	教 育 場 所
農 産	水 田 農 業	本 校
	茶	茶 業 指 導 所
園 芸	施 設 園 芸 (野菜・花き)	本 校
	果 樹	
畜 産	畜 産	畜産技術振興センター

② 科目区分別時間数および単位数

教 科 区 分	1 年	2 年	合 計
教 養 科 目	128(7)	32(2)	160(9)
共 通 科 目	528(26)	384(14)	912(40)
専 攻 科 目	624(24)	800(27)	1,424(51)
合 計	1,280(57)	1,216(43)	2,496(100)

③ 学習時間

校 時	時 間	備 考
第 1・2 時 限	9 : 0 0 ~ 1 0 : 3 0	講義、実習、ゼミナール等
第 3・4 時 限	1 0 : 4 0 ~ 1 2 : 1 0	
第 5・6 時 限	1 3 : 1 0 ~ 1 4 : 4 0	
第 7・8 時 限	1 4 : 5 0 ~ 1 6 : 2 0	

④ 資格免許等の取得

農業経営に必要な下記の資格免許を取得する機会がある。（※は本校で実習・講義を行うもの。）

資 格 免 許 名	学 年	時 期
大 型 特 殊 免 許 （ 農 耕 用 ）※	1	6 月 中 旬
け ん 引 免 許 （ 農 耕 用 ）※	1	6 月 下 旬
危 険 物 取 扱 者 （ 乙 種 第 4 類 ）※	1, 2	7 月、11月
ボ イ ラ ー 取 扱 技 能 講 習	1	10月 中 旬
毒 物 劇 物 取 扱 者 （ 農 業 用 品 目 ）	1, 2	12月 上 旬
フ ォ ー ク リ フ ト 技 能 講 習※	1, 2	7 月、8 月
ガ ス 溶 接 技 能 講 習	1, 2	9 月 上 旬
ア ー ク 溶 接 特 別 教 育	1, 2	8 月 下 旬
家 畜 人 工 授 精 師 （ 畜 産 専 攻 生 ）	1, 2	2027年2月
床 上 操 作 式 ・ 小 型 移 動 式 ク レ ーン 運 転 技 能 講 習	1, 2	7月～8月
小 型 車 両 系 建 設 機 械 特 別 教 育	1, 2	7月 下 旬

⑤ 学校行事等

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
行事	プロジェクト計画検討会 入学・入学式	東海近畿地区スポーツ大会 一年生農業体験学習 体育大会	けん引研修 トラクタ研修	前期試験	夏期休暇	二年生農業体験学習	トラクタ研修 一年生研修旅行	けん引研修 収穫祭 農業体験学習報告会	プロジェクト研究発表会	後期試験① 東海近畿農業大学校研究・意見発表会	全国農業大学校学生交換大会・発表会	後期試験② 卒業証書・修了証書授与式

(2) 教育科目

◎各科目別総時間数

科目区分	科目名	時間数 (単位)		合計	科目内容
		1年生	2年生		
教 養		128 (7)	32 (2)	160 (9)	社会人として身につけなければならない教養科目
共 通		528 (26)	384 (14)	912 (40)	各専攻コースに共通して必要な農業の基礎的科目 (農業体験学習も含む)
専攻科目	専攻教科	624 (24)	640 (22)	1,264 (46)	専攻コースごと別記のとおり
	卒業論文	0	160 (5)	160 (5)	プロジェクト学習の成果にもとづく調査・研究および論文作成
	小 計	624 (24)	800 (27)	1,424 (51)	
合 計		1,280 (57)	1,216 (43)	2,496 (100)	

特別活動	学 校 行 事	入学・入校式、始業式、終業式、東海近畿地区スポーツ大会、校内体育大会、研修旅行、収穫祭、卒業証書・修了証書授与式
	特 別 学 習	指導農業士及び本校卒業生等第1線で活躍する農業者の講話、特別講義、進路学習、合宿研修
	自 治 活 動	学生自治会主催の活動(球技大会・新入生歓迎会等)

① 教養科目

科 目 名	時間数(単位)		合 計	科 目 内 容
	1 年 生	2 年 生		
経済 (農業と経済)	16 (1)	0	16 (1)	農業経営の環境である食料生産・流通・食生活の現状と、基本的な価格形成の仕組みから、農業の現代的課題に関する基礎的な知識を習得する。
法律 (農業と法律)	16 (1)	0	16 (1)	農業経営を行う上で必要な法律の基礎的知識を習得する。 1. 法律のしくみ 2. 契約法と物件法 3. 農業関連法（農地法、食糧法等） 4. 訴訟法と裁判制度
体育	32 (1)	0	32 (1)	スポーツを通じて基礎体力の維持向上と集団でのコミュニケーション能力を習得する。また、生涯健康で暮らせる心身を維持する能力を養成する
キャリアデザイン Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	農業経営者や卒業生等と交流するとともに、英会話等の学びを通じて、将来のキャリア形成に向けて考える。
キャリアデザイン Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	農業経営者や卒業生等と交流するとともに、滋賀県の地理・特徴等の学びを通じて、将来のキャリアデザインを構築する。
農 業 基 礎	16 (1)	0	16 (1)	1. 農学の基礎知識の習得 2. 生物学の基礎知識の習得 3. G A Pの基礎
情 報 処 理 Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	1. 情報処理の基礎を学ぶ。 2. プレゼンテーション 3. ワープロ・表計算ソフトの利用を学ぶ。 4. 表・グラフによる数値の把握
学習方法論Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	1. 実習やプロジェクト学習に必要な計算能力の習得 2. 論文等の作成に必要な文章作成・文章表現能力の習得
学習方法論Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	1. プロジェクト学習に必要な発想力・企画力 2. プロジェクト学習をまとめる方法論 3. 問題解決の方法論
合 計	128 (7)	32 (2)	160 (9)	

② 専門・共通科目

科目名	時間数(単位)		合 計	科 目 内 容
	1 年生	2 年生		
農 業 政 策	16 (1)	0	16 (1)	1.世界の農業情勢 2.日本の農業情勢と政策 3.滋賀県の農業施策、滋賀県農業の現状と課題
農 業 経 営	16 (1)	0	16 (1)	1.個別経営のとらえ方と分析方法・農業の経済的しくみ・農業経営の とらえ方・比較のための分析指標 2.家族経営と企業経営の特徴対比 3.農業経営の法人化とその意義
農 業 簿 記	32 (2)	0	32 (2)	農業簿記を中心とした複式簿記の基礎知識の習得と演習
農産物流通	16 (1)	0	16 (1)	1.農産物流通現場を確認し、農産物流通の実際を学ぶ。 2.農産物流通の仕組みと機能、役割を学ぶ。
農産物マーケティング*	0	16 (1)	16 (1)	1.マーケティングの手法を学ぶ。 2.ブランド化に必要なコンセプト、ブランディングの流れを学ぶ。
農業技術概論Ⅰ (作物・野菜)	16 (1)	0	16 (1)	1.稲・麦・大豆生産技術の概要 2.野菜生産技術の概要
農業技術概論Ⅱ (花き・果樹)	16 (1)	0	16 (1)	1.花き生産技術の概要 2.果樹生産技術の概要
農業技術概論Ⅲ (茶・畜産)	16 (1)	0	16 (1)	1.茶生産技術の概要 2.畜産生産技術の概要
農 業 機 械 (学科)	16 (1)	0	16 (1)	1.農業機械と農作業－意義と役割 2.エンジンの基礎知識 3.トラクタの構造と機能 4.主要農業機械の構造と機能 5.整備と安全作業
農 業 機 械 (実技)	32 (1)	0	32 (1)	大型特殊自動車（農耕用トラクタ、けん引作業機）の特徴を知り、安全な運転操作を学ぶ
土 壌 肥 料	16 (1)	0	16 (1)	1.土壌と肥料の基礎知識 2.土壌の特徴と管理 3.土壌の保全と土壌分析
気象と農業災害	16 (1)	0	16 (1)	1.気象概論と滋賀の気象 2.気象災害と対策 3.気象情報の入手と活用
農 薬 概 論	16 (1)	0	16 (1)	1.農薬を理解するための化学知識の習得 2.農薬およびその使用に関する基礎知識の習得
6 次産業化農業	0	16 (1)	16 (1)	1.6次産業化の意義 2.農産加工の実際・製造現場 3.加工・直売上の注意事項(表示、生産管理工程等)
特殊技術学習	16 (1)	0	16 (1)	1.基礎化学の習得 2.危険物取扱者（乙種4類）資格取得に必要な知識の習得
労 働 衛 生	16 (1)	0	16 (1)	1.農業労働の特徴 2.農作業安全と作業環境の改善 3.労働設計の樹立
情報処理Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	1.データ整理と図表作成を学ぶ。 2.プレゼンテーション用ソフトの利用技術を学ぶ。 3.情報リテラシーについて学ぶ。
環 境 と 農 業	16 (1)	0	16 (1)	1.食の安全と農業 2.資源循環型農業のあり方と展開方向 3.滋賀県の環境と農業技術（環境こだわり農業）4.獣害対策
みどり戦略Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	みどりの食料システム戦略の概要と取組について学ぶ
みどり戦略Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	みどりの食料システム戦略に基づく水稻（有機）栽培等について学ぶ
スマート農業	16 (1)	0	16 (1)	1.スマート農業の概要 2.クラウド型農業管理システムの実践について 3.ドローンや無人自動走行トラクタの活用事例
農業生産管理	16 (1)	0	16 (1)	1.リスク評価の方法 2.改善策の検討実践について 3.GAP実践の実際 4.ICTを活用した労働管理
複合経営・多角経営	16 (1)	0	16 (1)	1.土地利用型(水田)農業の成り立ちおよび経営の発展 2.複合経営・多角経営の取り組み状況と分析
農業機械実習	32 (1)	0	32 (1)	1.主要農業機械の使用方法について実習を通して学ぶ。
基 礎 実 習	128 (4)	0	128 (4)	1.農業に関する技術を総合的に体験させ、農業者としての基礎的資質向上を図る。
農業体験学習Ⅰ	32 (1)	0	32 (1)	1.先進農業者において農作業を体験し、現場での農業技術やその 経営感覚を学ぶとともに協調性と社会性の育成を図る。
農業体験学習Ⅱ	0	320 (10)	320 (10)	1.先進農業者において2ヶ月間地域農業の実態に接し、農業技術やその 経営感覚を学ぶ。
合 計	528 (26)	384 (14)	912 (40)	

③ 専攻コース別科目

ア. 農産課程・水田農業専攻

科目名	時間数(単位数)		合 計	科 目 内 容
	1年生	2年生		
水田農業総論	16 (1)	0	16 (1)	滋賀県の土地利用型農業の特徴と課題、栽培体系、経営の成り立ちなどを学ぶ
水 稻 栽 培Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	1. 水稻の一生と栽培管理（育苗、移植、本田管理、登熟、収穫など） 2. 本県稲作の基本技術（品種、土づくり、食味・品質向上など）
水 稻 栽 培Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	1. 低コスト稲作 2. 新しい需要に向けた稲作について
麦 類 の 栽 培	0	16 (1)	16 (1)	1. 4 麦（小麦・六条大麦・二条大麦・はだか麦）と利用方法 2. 本県麦の特徴 3. 栽培管理 4. 経営指標
大 豆 栽 培	16 (1)	0	16 (1)	1. 本県大豆の特徴 2. 品種と利用 3. 栽培管理 4. 経営指標
水田雑草対策	0	16 (1)	16 (1)	1. 主要水田雑草の種類と特徴 2. 水田雑草防除技術－雑草剤の種類、防除体系、農薬に頼らない方法 3. 麦・大豆の雑草対策
土地利用型園芸Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	1. 水田作野菜の栽培作付け体系 2. 水田作野菜や加工業務用途向け栽培を導入する農業経営の特性 3. 排水対策の重要性とその手法 4. キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、ナバナ、小菊に関する各論
土地利用型園芸Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	1. 露地野菜のうち根菜（ダイコン、カブ、イモ類）および葉もの野菜（ネギ、タマネギ）に関する各論 2. 県内外の先進地における栽培状況
農業機械 (水田作業機)	32 (2)	0	32 (2)	1. トラクタ、コンバイン、田植機の構造と機能及び整備
植物保護	16 (1)	0	16 (1)	1. 植物病害の基礎知識、伝染方法 2. 病害の発生と環境条件 3. 害虫の基礎知識 4. 害虫の診断と発生予察
作物病虫害	16 (1)	0	16 (1)	1. 水稻・麦・大豆に発生する病虫害の診断と生態、 2. 農薬の特性と安全利用、防除技術（耕種・物理・生物防除）、 3. 総合的病虫害管理技術(IPM)
稲 作 経 営	16 (1)	0	16 (1)	1. 稲作に関わる歴史的背景を知る 2. 稲作に関する民族学的知見を知る 3. 稲と食文化に関する新たな知識を得る。
専 攻 演 習 (ゼミナール)Ⅰ	32 (1)	0	32 (1)	選定した課題について文献を収集・整理し、論点整理をするとともに発表討議を行う。
専 攻 演 習 (ゼミナール)Ⅱ	0	32 (1)	32 (1)	技術・経営について検討を加え、常に問題意識を持つように努め、発表力の向上を図る。
実習およびプロジェクト学習Ⅰ	448 (14)	0	448 (14)	農作物栽培の基本技術を習得すると共に、自らの経営計画に基づく実践的技術や専門知識の理論付けを行う。
実習およびプロジェクト学習Ⅱ	0	544 (17)	544 (17)	農作物栽培の基本技術を習得すると共に、自らの経営計画に基づく実践的技術や専門知識の理論付けを行い、プロジェクトとしてまとめる。
卒 業 論 文	0	160 (5)	160 (5)	1. プロジェクトの内容の検討と課題の決定 2. 課題解決しプロジェクトとしてまとめる 3. 報告会での発表と論文として発刊する
合 計	624 (24)	800 (27)	1,424 (51)	

イ．農産課程・茶専攻

科 目 名	時間数(単位)		合 計	科 目 内 容
	1 年 生	2 年 生		
茶の栽培基礎Ⅰ	32 (2)	0	32 (2)	1. 茶の形態 2. 茶の基礎用語 3. 茶の生育と生態 4. 茶の栄養生理
茶の栽培基礎Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	1. 茶の栽培法 2. 調査方法
茶の栽培応用Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	1. 茶の品種特性 2. 茶園の造成 3. 凍霜害とその対策、 4. その他気象災害対策
茶の栽培応用Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	1. 摘採とせん枝 2. 茶樹の更新 3. 年間作業計画、 4. 栽培管理作業の機械化
茶園の施肥法Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	1. 茶の養分吸収特性 2. 肥料の種類と特性
茶園の施肥法Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	1. 茶園における施肥の実際 2. 茶園における環境保全型施肥技術
茶の製造・再製Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	1. 茶の分類 2. 製茶工場と製茶機械 3. 茶の製造法
茶の製造・再製Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	茶の再製加工技術および品質鑑定技術
茶 の 化 学	16 (1)	0	16 (1)	1. 茶の品質と化学成分 2. 茶の摘採期・熟度と化学成分
植物保護	16 (1)	0	16 (1)	1. 植物病害の基礎知識、伝染方法 2. 病害の発生と環境条件 3. 害虫の基礎知識 4. 害虫の診断と発生予察
茶の病虫害	16 (1)	0	16 (1)	1. 病虫害の発生生態、病虫害の被害、防除方法、 2. 農薬の特性と安全使用、天敵を利用した防除、 3. 化学合成農薬を使用しない防除方法
茶業経営	16 (1)	0	16 (1)	1. 茶業経営の性格、茶業経営の現状と課題、茶業経営の動向
専 攻 演 習 (ゼミナール)Ⅰ	32 (1)	0	32 (1)	選定した課題について文献を収集・整理し、論点整理をするとともに 発表討議を行う。
専 攻 演 習 (ゼミナール)Ⅱ	0	32 (1)	32 (1)	技術・経営について検討を加え、常に問題意識を持つように努め、発 表力の向上を図る。
実習およびプロジ ェクト学習Ⅰ	448 (14)	0	448 (14)	農作物栽培の基本技術を習得すると共に、自らの経営計画に基づく実 践的技術や専門知識の理論付けを行う。
実習およびプロジ ェクト学習Ⅱ	0	544 (17)	544 (17)	農作物栽培の基本技術を習得すると共に、自らの経営計画に基づく実 践的技術や専門知識の理論付けを行いプロジェクトとしてまとめる。
卒 業 論 文	0	160 (5)	160 (5)	1. プロジェクトの内容の検討と課題の決定 2. 課題解決しプロジェクトとしてまとめる 3. 報告会での発表と論文として発刊する
合 計	624 (24)	800 (27)	1,424 (51)	

ウ．園芸課程・施設園芸専攻・野菜コース

科 目 名	時間数(単位)		合計	科 目 内 容
	1 年生	2 年生		
施設園芸総論	16 (1)	0	16 (1)	野菜栽培に関する基礎
キュウリ栽培	16 (1)	0	16 (1)	キュウリに関する来歴、性状および適応性、品種、作型、栽培管理、病害虫管理、経営上の特性 2. 先進地における栽培状況調査
トマト栽培	16 (1)	0	16 (1)	トマトに関する来歴、性状および適応性、品種、作型、栽培管理、病害虫管理、経営上の特性 2. 先進地における栽培状況調査
イチゴ栽培	16 (1)	0	16 (1)	イチゴに関する来歴、性状および適応性、品種、作型、栽培管理、病害虫管理、経営上の特性 2. 先進地における栽培状況調査
軟弱野菜栽培	16 (1)	0	16 (1)	1. ホウレンソウ、シュンギク、コマツナ他に関する各論、来歴、性状および適応性、品種、作型、栽培管理、病害虫管理、経営上の特性 2. 先進地における栽培状況調査
ナス栽培	0	16 (1)	16 (1)	1. ナスに関する来歴、性状および適応性、品種、作型、栽培管理、病害虫管理、経営上の特性 2. 先進地における栽培状況調査
メロン栽培	0	16 (1)	16 (1)	1. メロンに関する来歴、性状および適応性、品種、作型、栽培管理、病害虫管理、経営上の特性 2. 先進地における栽培状況調査
土地利用型園芸Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	1. 土地利用型作物と組み合わせた水田作野菜の作付け体系 2. 水田作野菜や加工業務用途向け栽培を導入する農業経営の特性 3. 排水対策の重要性とその手法 4. 露地野菜のうち結球野菜・花野菜（キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、ナバナ、小菊）に関する各論
土地利用型園芸Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	1. 露地野菜のうち根菜（ダイコン、カブ、イモ類）および葉もの野菜（ネギ、タマネギ）に関する各論 2. 県内外の先進地における栽培状況
園芸用施設	16 (1)	0	16 (1)	1. 栽培用施設の種類と構造 (1)施設の種類と特性 (2)被覆資材、保温資材の種類と特性 (3)作物の種類と施設の特徴 2. 環境制御技術とその機器装置 (1)保温の原理 (2)省エネの理論と暖房・換気・冷房機器 (3)日長制御 (4)炭酸ガス施用と機器装置 (5)養液栽培装置の種類と特徴 (6)土壌消毒の目的と装置
少量土壌培地耕システム	0	16 (1)	16 (1)	1. 本県独自の養液栽培技術である少量土壌培地耕栽培の内容（構造・栽培品目・コスト等）について理解する。 2. 先進農業者の取り組み事例の見学。
植物保護	16 (1)	0	16 (1)	1. 植物病害の基礎知識、伝染方法 2. 病害の発生と環境条件 3. 害虫の基礎知識 4. 害虫の診断と発生予察
野菜経営	16 (1)	0	16 (1)	1. 野菜経営のための基礎知識 (経営の三要素、売上、経費、経営安定の方法)
専攻演習 (ゼミナール)Ⅰ	32 (1)	0	32 (1)	選定した課題について文献を収集・整理し、論点整理をするとともに発表討議を行う。
専攻演習 (ゼミナール)Ⅱ	0	32 (1)	32 (1)	技術・経営について検討を加え、常に問題意識を持つように努め、発表力の向上を図る。
実習およびプロジェクト学習Ⅰ	448 (14)	0	448 (14)	農作物栽培の基本技術を習得すると共に、自らの経営計画に基づく実践的技術や専門知識の理論付けを行う。
実習およびプロジェクト学習Ⅱ	0	544 (17)	544 (17)	農作物栽培の基本技術を習得すると共に、自らの経営計画に基づく実践的技術や専門知識の理論付けを行いプロジェクトとしてまとめる。
卒業論文	0	160 (5)	160 (5)	1. プロジェクトの内容の検討と課題の決定 2. 課題解決しプロジェクトとしてまとめる 3. 報告会での発表と論文として発刊する
合 計	624 (24)	800 (27)	1,424 (51)	

エ. 園芸課程・施設園芸専攻・花きコース

科 目 名	時間数 (単位)		合計	科 目 内 容
	1年生	2年生		
施設園芸総論	16 (1)	0	16 (1)	野菜栽培に関する基礎
バラ栽培	16 (1)	0	16 (1)	1. バラの生産動向 2. バラの栽培基礎・品種、経営、仕立て方法とその特徴、施肥法、病害虫防除
カーネーション栽培	16 (1)	0	16 (1)	1. カーネーションの生産動向 2. カーネーションの栽培基礎・病害虫防除・品種、経営
キク栽培	16 (1)	0	16 (1)	1. キクの生産動向 2. キクの栽培基礎・病害虫防除・品種、経営、開花調節
鉢花・花苗栽培	0	16 (1)	16 (1)	1. 鉢花・花苗の生産動向(生産の歴史と現状)と現地視察 2. 鉢花の基礎知識: 品目、経営、用土、栄養生理、施肥、病害虫防除 3. 花苗の基礎知識: 各品目の栽培技術、病害虫防除
草花栽培	16 (1)	0	16 (1)	1. 1・2年草の定義と分類 2. 播種方法 3. 主要品目の生理生態と栽培技術・病害虫防除(トルコギキョウ、アスター、ヒマワリ、ケイトウ、ストック、キンギョソウ、スターチス等)
洋ラン・観葉植物栽培	0	16 (1)	16 (1)	1. 洋ラン・観葉植物の生産動向(生産の歴史と現状)、視察 2. 洋ランの基礎知識: 品目、経営、各品目の栽培技術、病害虫防除 3. 観葉植物の基礎知識: 品目、経営、各品目の栽培技術、病害虫防除
土地利用型園芸Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	1. 土地利用型作物と組み合わせた水田作野菜の作付け体系 2. 水田作野菜や加工業務用途向け栽培を導入する農業経営の特性 3. 排水対策の重要性とその手法 4. 露地野菜のうち結球野菜・花野菜(キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、ナバナ、小菊)に関する各論
園芸用施設	16 (1)	0	16 (1)	1. 栽培用施設の種類と構造 (1)施設の種類と特性 (2)被覆資材、保温資材の種類と特性 (3)作物の種類と施設の特徴 2. 環境制御技術とその機器装置 (1)保温の原理 (2)省エネの理論と暖房・換気・冷房機器 (3)日長制御 (4)炭酸ガス施用と機器装置 (5)養液栽培装置の種類と特徴 (6)土壌消毒の目的と装置
少量土壌培地耕システム	0	16 (1)	16 (1)	1. 本県独自の養液栽培技術である少量土壌培地耕栽培の内容(構造・栽培品目・コスト等)について理解する。 2. 先進農業者の取り組み事例の見学。
植物保護	16 (1)	0	16 (1)	1. 植物病害の基礎知識、伝染方法 2. 病害の発生と環境条件 3. 害虫の基礎知識 4. 害虫の診断と発生予測
花き経営	0	16 (1)	16 (1)	1. 需要と生産(国内および本県の需要動向と産地の動向) 2. 花き生産の条件(自然的、経営的、生物的)、作物選択と栽培技術 3. 施設と費用(施設と整備、生産費、所要労力、収益性) 4. 農業経営における基本的な知識や考え方 5. 花き各品目における経営の特徴および改善方法
フラワーデザイン	16 (1)	0	16 (1)	1. フラワーデザインの概論と歴史 2. アレンジメント
専攻演習(ゼミナール)Ⅰ	32 (1)	0	32 (1)	選定した課題について文献を収集・整理し、論点整理をするとともに発表討議を行う。
専攻演習(ゼミナール)Ⅱ	0	32 (1)	32 (1)	技術・経営について検討を加え、常に問題意識を持つように努め、発表力の向上を図る。
実習およびプロジェクト学習Ⅰ	448 (14)	0	448 (14)	農作物栽培の基本技術を習得すると共に、自らの経営計画に基づく実践的技術や専門知識の理論付けを行う。
実習およびプロジェクト学習Ⅱ	0	544 (17)	544 (17)	農作物栽培の基本技術を習得すると共に、自らの経営計画に基づく実践的技術や専門知識の理論付けを行いプロジェクトとしてまとめる。
卒業論文	0	160 (5)	160 (5)	1. プロジェクトの内容の検討と課題の決定 2. 課題解決しプロジェクトとしてまとめる 3. 報告会での発表と論文として発刊する
合 計	624 (24)	800 (27)	1,424 (51)	

オ．園芸課程・果樹専攻

科 目 名	時間数(単位)		合計	科 目 内 容
	1 年 生	2 年 生		
果 樹 総 論	16 (1)	0	16 (1)	果樹園芸の概要と生育過程における生理特性など
ナ シ 栽 培	32 (2)	0	32 (2)	1. ナシの品種、生理特性、栽培管理、経営上の特徴 2. 先進地の事例紹介
ブドウ栽培	16 (1)	0	16 (1)	1. ブドウの品種、生理特性、栽培管理、経営上の特徴 2. 先進地の事例紹介
モ モ 栽 培	32 (2)	0	32 (2)	1. モモの品種、生理特性、栽培管理、経営上の特徴 2. 先進地の事例紹介
カ キ 栽 培	16 (1)	0	16 (1)	1. カキの品種、生理特性、栽培管理、経営上の特徴 2. 先進地の事例紹介
イチジク栽培	0	16 (1)	16 (1)	1. イチジクの品種、生理特性、栽培管理、経営上の特徴 2. 先進地の事例紹介
ブルーベリー栽培	0	16 (1)	16 (1)	1. ブルーベリーの品種、生理特性、栽培管理、経営上の特徴 2. 先進地の事例紹介
各種果樹栽培	0	16 (1)	16 (1)	1. ウメ、スモモ、リンゴ、オウトウ、カンキツ類等の栽培概要 2. 先進地の事例紹介
植物保護	16 (1)	0	16 (1)	1. 植物病害の基礎知識、伝染方法 2. 病害の発生と環境条件 3. 害虫の基礎知識 4. 害虫の診断と発生予察
果樹病虫害	16 (1)	0	16 (1)	1. 果樹の主要病虫害の種類と発生要因 2. 病虫害の防除方法および農薬の使用法 3. 果樹主要病虫害の総合的な防除について
果樹経営	0	16 (1)	16 (1)	1. 果樹経営指標と経営試算
専 攻 演 習 (ゼミナール)Ⅰ	32 (1)	0	32 (1)	選定した課題について文献を収集・整理し、論点整理をするとともに発表 討議を行う。
専 攻 演 習 (ゼミナール)Ⅱ	0	32 (1)	32 (1)	技術・経営について検討を加え、常に問題意識を持つように努め、発表力 の向上を図る。
実習およびプロジェ クト学習Ⅰ	448 (14)	0	448 (14)	農作物栽培の基本技術を習得すると共に、自らの経営計画に基づく実践的 技術や専門知識の理論付けを行う。
実習およびプロジェ クト学習Ⅱ	0	544 (17)	544 (17)	農作物栽培の基本技術を習得すると共に、自らの経営計画に基づく実践的 技術や専門知識の理論付けを行いプロジェクトとしてまとめる。
卒 業 論 文	0	160 (5)	160 (5)	1. プロジェクトの内容の検討と課題の決定 2. 課題解決しプロジェクトとしてまとめる 3. 報告会での発表と論文として発刊する
合 計	624 (24)	800 (27)	1,424 (51)	

カ. 畜産課程・畜産専攻

科 目 名	時間数(単位数)		合計	科 目 内 容
	1 年生	2 年生		
畜 産 総 論	16 (1)	0	16 (1)	1. 畜産の歴史 2. 耕畜連携 3. 畜産環境 4. 持続的生産
飼養管理Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	1. 養鶏 2. 養豚 3. 肉用牛 4. 畜舎の構造及び施設機械酪農 5. 糞尿処理施設の構造及び理論
飼養管理Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	畜産技術や家畜の快適性に配慮した飼養管理
家 畜 育 種	16 (1)	0	16 (1)	1. 遺伝学の基礎 2. 家畜の改良方法と方向 3. 家畜の選抜方法とその特徴 4. 家畜の体型審査および測定方法 5. 家畜の登録制度と関連法規
家 畜 栄 養	16 (1)	0	16 (1)	1. 飼料の種類 2. 栄養素の種類 3. 家畜の消化器官の構造と消化の特徴 4. 栄養と生産物 5. 飼料計算 6. 飼料摂取の環境要因
家 畜 繁 殖	16 (1)	0	16 (1)	1. 授精から分娩または産卵までの経過 2. 生殖器の構造および機能 3. 精子・卵子の構造及び役割 4. 繁殖機能に係るホルモンおよび作用 5. 繁殖の周期性と生殖器および行動の変化 6. 精子生理 7. 種付け理論
家 畜 衛 生	16 (1)	0	16 (1)	1. 危機管理 2. 主な家畜伝染病 3. 免疫の仕組みとワクチン 4. 消毒の意義とその方法 5. 衛生的な畜舎環境 6. 関連法規と畜主の義務
家 畜 解 剖	16 (1)	0	16 (1)	1. 家畜の骨格と筋肉 2. 家畜の内臓 3. 家畜の血管 4. 家畜の神経
生 物 工 学	0	16 (1)	16 (1)	1. 胚移植総論 2. 胚の構造と生理 3. 過剰排卵処理と胚の採取・移植 4. 胚操作 5. 胚移植技術の今後の展望
飼料作物Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	1. 飼料作物の種類と特徴 2. 作業体系と作業機械の種類 3. 製品の品質評価 4. 病害虫の種類と防除法
飼料作物Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	自給飼料、飼料用稲の生産技術、エコフィード
畜 産 経 営	0	16 (1)	16 (1)	1. 畜産経営とは 2. 経営の目標と収益性 3. 酪農経営 4. 肉用牛経営 5. 養豚経営 6. 採卵鶏・肉用鶏経営 7. 記帳と経営分析 8. 経営改善計画策定
畜産物流通	16 (1)	0	16 (1)	1. 日本の畜産物の生産と流通状況 2. 世界の畜産物の生産と流通状況 3. 安全・安心な畜産物の生産と消費者意識
専 攻 演 習 (ゼミナール)Ⅰ	32 (1)	0	32 (1)	選定した課題について文献を収集・整理し、論点整理をするとともに発表 討議を行う。
専 攻 演 習 (ゼミナール)Ⅱ	0	32 (1)	32 (1)	技術・経営について検討を加え、常に問題意識を持つように努め、発表力 の向上を図る。
実習およびプロジ ェクト学習Ⅰ	448 (14)	0	448 (14)	農作物栽培の基本技術を習得すると共に、自らの経営計画に基づく実践的 技術や専門知識の理論付けを行う。
実習およびプロジ ェクト学習Ⅱ	0	544 (17)	544 (17)	農作物栽培の基本技術を習得すると共に、自らの経営計画に基づく実践的 技術や専門知識の理論付けを行いプロジェクトとしてまとめる。
卒業論文	0	160 (5)	160 (5)	1. プロジェクトの内容の検討と課題の決定 2. 課題解決しプロジェクトとしてまとめる 3. 報告会での発表と論文として発刊する
合 計	624 (24)	800 (27)	1,424 (51)	

(3) 実習およびプロジェクト学習計画

①ねらいと主な内容

専 攻	実習のねらい	実 習 の 内 容	
共 通	専攻の決定前に、各専攻の主な作業を総合的に体験させ、農業者としての基礎的資質の向上を図る。	1. 各専攻（作物、野菜、花き、果樹）の圃場実習により、各部門の基本的な栽培管理作業を体験させる。 2. 農業機械の運転技術の習得と簡単な点検、整備実習	
水田農業	各部門、品目に関する基本的な技術習得をはかる。 さらに、各人のプロジェクト課題に基づき、より高度な知識と技術の習得を図る。	1. 水稻の栽培技術の習得（品種、施肥、水管理等） 2. 麦、大豆の栽培技術の習得 3. 農業機械の効率的な作業法 4. 転作畑での露地野菜（水田野菜）栽培技術	
茶		1. 茶栽培管理技術の習得 ○被覆栽培、整枝・せん枝、施肥 ○病虫害防除、茶園改植等 2. 緑茶製造技術の習得 ○一番茶、二番茶製造 ○荒茶再製加工、茶包装技術等	
施設園芸（野菜）		1. 生理生態の理解 ○果菜類（メロン、トマト、キュウリ、イチゴ他） ○葉菜類（ホウレンソウ、コマツナ他） 2. 栽培管理技術の習得 ○施設野菜の育苗、本圃栽培管理技術 ○養液栽培技術 （少量土壌培地耕、プランタ耕他）	
施設園芸（花き）		1. 切花の栽培技術の習得 ○バラ、カーネーション、キク、ストック、トルコキキョウ等の少量土壌培地耕、プランタ耕、養液土耕 2. 鉢物、花壇苗の栽培技術の習得 ○シクラメン、ビオラ、ジニア等 3. 開花調節技術の習得 ○日長処理、暖・冷房技術、ホルモン剤利用	
果 樹		1. 主な樹種 ○ブドウ、ナシ、モモ、カキ、イチジク 2. 栽培管理技術の習得 ○樹体管理、土壌管理 ○整枝、剪定、病虫害防除 ○植物成長調整剤使用方法他	
畜 産	肉用牛、乳用牛、肉用鶏、飼料作物を対象に飼養管理技術等を習得し、プロジェクト課題に基づき、より高度な技術の習得を図る。	肉 用 牛	1. 繁殖牛の飼養衛生管理技術 2. 肥育牛の飼養衛生管理技術 3. 畜舎の環境管理技術
		乳 用 牛	1. 乳用牛の飼養衛生管理技術 2. 乳用育成牛の飼養衛生管理技術 3. 畜舎の環境管理技術
		肉 用 鶏	1. 近江しゃもの飼養管理技術 2. 鶏舎の環境管理技術
		飼料作物	1. 飼料作物及び牧草類の栽培技術 2. 飼料作物及び牧草類のサイレージ化技術